

科目名	高次脳機能障害学Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
							2年 前期
【授業の目的・ねらい】 患者さんに検査を実施していくうえでの心得を身につける 各検査を手順どおりに実施できる。検査結果を元に基本的な評価を行うことができる							
【実務者経験】 言語聴覚士として倉敷市立病院に勤務、高次脳機能障害のリハビリテーションに従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 高次脳機能障害についてより具体的な内容を理解し、評価法についての基礎知識と検査バッテリーおよびそれらの実施法を知ることが出来る							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各検査が何のために行うのかを理解し、手順どおりの実施が出来る。また、結果と高次脳機能障害を結び付けて考えることが出来る。患者さんに対する声かけや態度などを身につけることが出来る							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	検査の目的や取り組み方について説明できる（スクリーニング検査）						検査道具
2	スクリーニング検査を作成することを通して必要な内容を理解する						検査道具
3	作成したスクリーニング検査をお互いに行い、FBができる						検査道具
4	知能検査について実施と説明が出来る（WAIS）						検査道具
5	知能検査について実施と説明が出来る（RCPM, コース）						検査道具
6	遂行機能の検査について実施と説明が出来る（BAD S）						検査道具
7	記憶の検査について実施と説明が出来る（S-PA, RBMT）						検査道具
8	記憶の検査について実施と説明が出来る（WMS-R）						検査道具
9	失行、失認の検査について実施と説明が出来る						検査道具
10	前頭葉機能の検査についての実施と説明が出来る						検査道具
11	視空間認知の検査について実施と説明が出来る						検査道具
12	注意機能の検査について実施と説明が出来る						検査道具
13	情報収集、スクリーニング検査について説明できる						PC
14	報告書の作成が出来る①						PC
15	報告書の作成が出来る②						PC
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚療法 高次脳機能障害学							
【準備学習・時間外学習】 実施した検査については、各自道具を使用しながら手順を確認してください。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 提出物の評価を10点、定期試験を90点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							